令和５年度　第１回　学長選考・監察会議議事要録

１　日　　時　　令和６年２月５日（月）１４時３０分から１５時１５分
２　場　　所　　日亜会館　会議室
３　出 席 者
（委　　員）　結城議長、植田委員、梅田委員、大西委員、北畑委員、米田委員、香美委員、山中委員、赤池委員、髙橋委員、馬場委員、土屋委員、松木委員
（陪　　席）　矢部監事、立木監事

４　議　　題
(1) 学長の業務運営報告について
国立大学法人徳島大学学長選考規則第１５条に基づき、学長から業務運営報告を受け、職務が適切に遂行されていることを確認した。

その際、以下の質疑応答や意見があった。

質問
次年度、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業への申請にあたり、現在の取組からどのように繋げていくのか。
回答
当該事業への申請にあたり、コアになる研究を実施している先端酵素学研究所、ポスト LED フォトニクス研究所、その他研究施設等、研究所間の連携を強化する組織を実質化させようと考えている。

質問
ミッション実現クラスターにおいて、ミッションの実現に繋がる研究を教えて欲しい。
回答
ミッション実現クラスターで採択された光工学、免疫・慢性炎症、食・栄養、創薬・合成化学、がん、防災の６項目全ての研究は、徳島大学のミッションに大きく貢献すると期待している。

意見
実践型インターンシップは非常に良い取組であるので、インターンシップ先のメリットを検討するなどし、インターンシップ先を増やし、来年度も継続していただきたい。

質問
　学長のビジョンを実行するための活動を教えて欲しい。
回答
　Teams を通じて、年末年頭に全教職員に所感等を伝えることで、ビジョンを共有している。若手研究者、女性研究者との意見交換の場、各戦略室会議における各理事を通じて部局長への情報共有及び SNS 等による情報伝達を行っている。

質問
　県域内連携に限らず、広域連携・関西連携についてどのように考えているか。
回答
　UI J ターン就職を見据え、広域での意見交換の必要性を感じている。
　また、大学入学、社会人のリスキリング、更に退職後の将来設計というマルチステージにおいて、大学が学びを深める場を提供することが、少子高齢化の社会における大学の生き残りには重要であると考えている。
　COC＋R 事業の活動により、地域の枠組みを超えた新しい提案をしていきたいと考えている。

質問
　アントレプレナーシップで強化していることは何か。
回答
　ポスト LED フォトニクス研究所を中心として社会実装を進めることが、新たな産業の創出及び外部資金の獲得に繋がると考えている。

質問
　令和 2 年のテクニオン－イスラエル工科大学との学術交流協定締結後の具体的な進展を教えて欲しい。
回答
　現在のイスラエル・パレスチナの戦線は非常に厳しいものであり、学生・研究者の派遣は中止しているが、オンラインによる交流は続いている。また、共同研究により得られた成果物を社会実装に繋げていくことを進めている。

意見
　令和 5 年 4 月に新設された経営改革推進本部会議は、学長のリーダーシップを発揮し、大学改革をする重要な組織であると思われるため、形骸化することなく実質化して欲しい。

質問
　経営改革推進本部会議の開催頻度、会議を通して具体化したことを教えて欲しい。

回答
　会議は月１回開催している。地域中核・特色ある研究大学強化促進事業の来年度申請に向け、検討しているところである。また、組織改革等についても検討している。

質問
　学生広報スタッフの制度化について教えて欲しい。
回答
　学生広報スタッフは、学生目線で徳島大学の取組を早く発信している。中には、再生数１万回近くの動画もあり、学生からの広報は非常に効果的であると感じている。

質問
　学生、教職員の意見を大学として迅速な対応に繋げているのか。
回答
　部局長、学生、若手研究者、女性研究者等から提案された大学運営のカギとなる意見は、学長・理事ミーティングにおいて意見交換を行い、緊急に進めるべき事項については、経営改革推進本部会議で審議し、迅速な実現を目指している。

(2) 次回の学長選考・監察会議の予定
　次回は、令和７年１月下旬頃に開催することとした。ただし、開催するべき案件が生じた場合は、その都度開催することとした。

（以上）